

連鎖関係詞節の現状：

*The British National Corpus*の用例をもとに

福 島 一 人

Concatenated Relative Clauses in Current English: Examples from *The British National Corpus*

Kazundo Fukushima

You feed children *who* you think are hungry. (who-clause)
You feed children *whom* you think are hungry. (whom-clause)
You feed children you think are hungry. (contact clause)

There have been various discussions about what is called a “concatenated relative clause.” One of the most controversial issues is that a grammatically incorrect deviant, “whom-clause” is fairly often used, besides a grammatically correct deviant, “who-clause.” Swan (1995) refers to the whom-clause as “not generally considered correct.” However, immediately following, after showing the example “This is a letter from my father, *whom* we hope will be out of hospital soon.”, he refers to the who-clause as “more correct.” This description seems to accept that the *whom*-clause is also correct, and therefore seems to be inconsistent with “not generally considered correct.” Huddleston & Pullum (2002) writes of the whom-clause that it “has to be accepted as an established variant of the standard language.” These two studies do not refer to a “contact clause,” or the frequency of each concatenated relative clause. Indeed, no study to date refers to the frequency of each clause, or their frequency in written English and spoken English.

The purpose of this paper is to clarify the frequency of the whom-clause in current English, compared to the frequency of the who-clause and the contact clause. Examples of each clause are retrieved from *The British National Corpus* (BNC). The frequency of each clause in written English and spoken English will also be clarified.

1. はじめに

Jespersenの言う連鎖関係詞節 (concatenated relative clause)⁽¹⁾ については、これまで種々の議論がなされてきた。

最大の問題点は、以下のように、先行詞が「人」を表す(代)名詞に続く関係詞が“who”のほかに、文法的に破格である“whom”、また石橋他編(以後『語法大事典』)(1995, pp.1179-1180)などでその延長線上にあると言われる、“whom”の省略される「接触節」の例が見られることであろう。

You feed children *who* you think are hungry.

You feed children *whom* you think are hungry.

You feed children you think are hungry.

“you think they are hungry”が前提となるので、主格関係代名詞“who”を使用するのが文法的である⁽²⁾。

最近の文法書の、英語学習者を対象としたSwan(以後PEU)(1995, p.496)では、“who”と“whom”についてのみ記述し、“whom”を“not generally considered correct”とした直後に、“whom”の例を挙げ、“who”が“more correct”とする、矛盾するような記述がされている。一方、Huddleston & Pullum(以後CGEL)(2002, pp.466-467)では、“whom”について、“The accusative variant has a long history and is used by wide range of speakers; examples are quite often encountered in quality newspapers and works by respected authors. It has to be accepted as an established variant of the standard language.”とし、その存在を完全に認めている。しかし、両者共、また他の参考文献においても、“who”“whom”それぞれの具体的使用頻度について、及び、接

触節の使用頻度についての記述はない。また、書き言葉（以後written）、話し言葉（以後spoken）における使用頻度の記述もない。

本稿は、参考文献の用例をもとに一定の言語環境を設定し、その範囲で、世界最大のコーパスであり最近の用例を多く含む*The British National Corpus* (2007-12 ~ 2008-4参照)⁽³⁾（以後*BNC*）をもとに“who”に導かれる場合と“whom”に導かれる場合の連鎖関係詞節（以後who節、whom節）、またwhom節と、一般的に“whom”が省略されているとされる接触節との使用頻度を比較する。さらに各連鎖関係詞節のwritten及びspokenにおける使用頻度も比較する。これにより、それぞれの連鎖関係詞節の現状を推測したい。言い換えれば、*CGEL*などでその存在が完全に認められているwhom節の使用頻度が*BNC*においてはどの程度であるか、を検証する。

2. 文法書・語法書

2.1から2.7に挙げた文法書・語法書に、当該連鎖関係詞節についての記述が集約されていると思われる。

You feed children *who* you think are hungry.

You feed children *whom* you think are hungry.

You feed children you think are hungry.

概略、whom節は文法的には破格であるが、十分使用される。そしてwhom節が使用される理由として、“you think”による牽引（Attraction）や深層意味⁽⁴⁾において同じ意味の“whom you think to be hungry”との混交（Blending）が挙げられている。

(a) はBNC中で本稿執筆者が発見した用例であるが、BlendingあるいはAttractionの典型と言えよう。

※用例の後の()中の数字はBNCの示す出版年代、その後は出典である。
アンダーラインは本稿執筆者によるものである。

(a) ... a client will not discuss intimate affairs with someone whom he believes to know nothing of such matters, or whom he thinks may condemn or be shocked by his problems. — (1979) *Sexual aspects of social work*.

前の“whom he believes to know”に影響された結果としてのBlendingとも、“whom he believes”とのバランスを保つための、“he thinks”によるAttractionとも考えられる。

また、接触節については、whom節の延長線上にある旨記述されている。

しかし、これら文法書・語法書には、who節、whom節の具体的使用頻度について、また、接触節の使用頻度の記述はない。また、written、spokenにおける、who節、whom節、接触節の使用頻度の記述もない。

2.1 MEG III, § 10.7₃. pp.197-198

- (a) We feed children *who* we think are hungry.
- (b) We feed children *whom* we think are hungry.

すべての内外の文法家が、“who”を“correct”とし、“whom”を“a gross error”「はなはだしい間違い」としており、特にFowlerの「立派な作家は“whom”を避ける」という評価に対して、Jespersenは「多くの著名な作家の作品に見られる」と再度反論している。

2.2 *Essentials*, 14.4., p.137

- (a) Ferdinand *whom* they supposed is drown'd (Sh.).
(b) I met a man *whom* I thought was a lunatic (E.F.Benson).

“who”、“whom”、全体的な傾向としては、“whom”の代わりに“who”が使用されるようになってきているが、その傾向は、関係代名詞については疑問代名詞程強くはない、としている。“incorrect”としばしば評価されるが上記のような、主語と動詞が連続する構造における主語の直前では“is still naturally used”としている。

2.3 *PEU*, p.496

- (a) This is the woman (*who/that*) Ann said could show us the church.

この構造において“whom”が使用されることがあるが一般的には“correct”と考えられていない、としている。

しかし、その直後に次の例が挙げられている。

- (b) This is a letter from my father, *whom* we hope will be out of hospital soon.

この例の補足説明として、“... *who* we hope will be out ...”を“more correct”としている。

この記述からすると、whom節も“correct”ということになる。

前の用例に対する記述と一見矛盾しているかのように見える⁽⁵⁾。しかし、Swanは、一般的にwhom節は‘correct’と考えられていない、としながらも、Swan自身はwhom節も‘correct’としている、と思われる。そして、*PEU*が、英語学習者対象であることを意識した結果、文法的なwho節に対して“more correct”という補足を行ったと思われる。

2.4 CGEL, pp.466-467

(a) A man with a large waxed moustache and a mop of curly damp hair, *whom* Hal thought might be his uncle Fred, said, "That's a fine bird you're carving, Bert."

規範文法家は、関係代名詞は主語として機能しているので“who”を使用すべきとし、“whom”は“incorrect”としているが、本構造では“whom”は昔から使用されてきており、現在でも幅広い話し手に用いられている。質の高い新聞や権威ある作家の作品でも使用されることが極めて多い。従って標準英語の確立した“variant”として認めざるを得ない旨、記述されている。

CGELは、2002年の出版であるにも拘らず、この記述は、MEGや、主に、MEGやEssentialsを参考にしている『語法大事典』の記述と共通する。60年以上前のJespersenの記述の妥当性が現代でもなお認められていると言えよう。

2.5 『語法大事典』⁽⁶⁾、pp.1, 179-1, 181

(a) Young Ferdinand, *whom* they supposed is drown'd⁽⁷⁾ ... -Sh. *Tempest*.

(b) S.James and S.John, *whom* we know were fishers ... -Walton: *The Complete Anger*.

(c) Mr.Thornhill, *whom* the host assured me was hated.
-Goldsmith: *Vicar of Wakefield*.

(d) I met a man *whom* I thought was a lunatic ... -Benson: *Arundel*.

(e) He never minced his words to rebuke those *whom* he thought deserved it. -*The Times*.

(f) She's just the type I always knew would attract him ... -Lawrence:
The Ladybird.

Poutsumaなど多くの文法家がwhom節を誤用であるとしているのに対し、Jespersenが (a) ~ (d) の例を挙げ、反論していることを述べている。また、JespersenのFowlerに対する反論も *MEG* から引用している。(2.1参照) (e) はScheurweghsによるものであるが、質の高い雑誌等でも使用されることを示すものであろう。2002年出版の*CGEL*の '... are quite often encountered in quality newspapers' と関連する用例である。

『語法大事典』ではwhom節の「慣用性」を完全に認めているようで、「慣用を文法の基準とするならば、現在のところwho、whomのいずれも文法上正しい」とまで言っている⁽⁸⁾。

しかし、教室で教える場合は“who”を選ぶべき、としている。1995年出版の*PEU*において、'whom' と 'who' について、'who' を 'more correct' としたSwanの姿勢が、これと共通するように思われている。

またJespersenによる (f) を挙げ、「関係代名詞の省略は、目的格であるから可能なのであり…」とし、接触節がwhom節の延長線上にあることを認める記述をしている。

(g) ... a Harley Street doctor paid £2,500 for him to donate a kidney to a patient whom he believed was a fellow countryman. — (1989) *The Guardian*, electronic edition

(h) ... a Harley Street doctor paid £2,500 for him to donate a kidney to a patient he believed was a fellow countryman. — (1989) *The Guardian*, electronic edition

*BNC*には、(g) と (h)、双方が存在した。このことは、接触節が“whom”が省略されたものであること、すなわち、whom節の延長線上

にあることを示す有力な根拠となろう。

『語法大事典』は、‘whom’の用いられる理由として大塚高信『英文法論考』p.215の、同義の2文の混交 (Blending) という見方を挙げている⁽⁹⁾。

(i) a man *who* I thought was a lunatic

(j) a man *whom* I thought to be a lunatic

2.6 『英文法解説』、p.75

(a) Give the flute to the one *who/whom* you think plays it best.

文法的には“who”が正しいが、関係代名詞が“think”の目的語のように感じられるから“whom”も使われる、としている。「Evans (*Usage*, p.556)などは“... either *who* or *whom* is acceptable except purists.”と言って、お手上げの格好である。」としている⁽¹⁰⁾。

2.7 『英文法講義』、p.192

MEGⅢの例を挙げ、関係詞が主語なのに、thinkの目的語だと誤解される、関係詞牽引という現象により、“whom”が使われることがあるが、Swan (1995, p.496) は、一般的に正用とは認められていないとしている旨記述している。

(a) We feed children *who(m)* we think are hungry.

しかし、『英文法講義』ではSwanが、直後に、whom節の例、(b)を挙げ、who節を“more correct”としていることについての記述はない。

(b) This is a letter from my father, *whom* we hope will be out of hospital soon.

3. *BNC*における用例数

3.1 言語環境

*BNC*におけるすべての連鎖関係詞の用例を検索するのは、困難である。従って、ある一定の言語環境の、典型的なパターンについて検索する。これにより、*BNC*の英語、さらには最近の英語（特にイギリス英語）における連鎖関係詞節の現状について推測が可能と思われる。

参考文献に挙げられている連鎖関係詞節の用例を整理すると大体次のパターンである。これらのパターンが典型的なものと言えるであろう。who節、whom節、そして接触節について、これらのパターンに限定して用例の検索を行った。

挿入節中の動詞は単純現在と単純過去に限定した。

who [whom] 節

(a) 人を表す(代)名詞 + who [whom] 節 + I [you, he, she, it, we, they] + think [know, believe, hope, suppose] + V

(b) 人を表す(代)名詞 + who [whom] + 1語の(代)名詞 + think [know, believe, hope, suppose] + V

接触節

人を表す(代)名詞 + I [you, he, she, it, we, they] + think [know, believe, hope, suppose] + V

*BNC*の「語(句)検索」により、例えば“who I think”や“whom I think”や“I think”を検索し、上記の言語環境に該当するものを、一つ一つ抽出した。

who [whom] 節においては、“who I think” “who I thought” “whom

he thinks” “whom he thought” などすべての項目が用例数が3,000未満であった。

しかし、接触節においては、用例数が3,000を超える項目が存在した。“I think” (41,284)、“I thought” (13,260)、“you think” (9,873)、“he thought” (4,038)、“she thought” (4,127)、“I know” (18,711) である。“I think” や “you know” の項目にいたっては、41,284、42,439と、3,000をはるかに超えていた。本稿では、接触節の抽出にあたり、それぞれの項目の用例数を3,000に限定した。接触節における各項目の3,000例は、SCN (Shogakukan Corpus Network) が無作為抽出したものである。

3.2 who節とwhom節の用例数

表1

	think	know	believe	hope	suppose	合計
who節	41+4	32+2	23+4	7+0	2+0	115
whom節	14+2	10+0	11+0	0+0	2+0	39

これらはBNC中に存在するwho [whom] 節の総用例数である。

+の後の数字は、(b) (挿入節中の主語が人称代名詞ではない、1語の(代)名詞)の用例数である。

who節については、“others think”、“Grace (人名) thinks”、“many thought”、“everyone thought”、“everyone knew”、“Jo (人名) knew”、“many believe”、“staff believes”、“investigators believe”、“some believe”の10例が存在した。

whom節については、“people think”、“Polanski (人名) thought”の2例が存在した。

これらの用例数は思ったより多くはなく、総用例数154例中の12例、すなわち7.8%であった⁽¹¹⁾。

*BNC*中のwho [whom] 節の総用例数は、154であり、who節は115、whom節は39であった。whom節は39で、who節とwhom節を合わせた用例数の25.3%を占める。

3.3 whom節と接触節の用例数

表2

	think	know	believe	hope	suppose	合計
whom節	14	10	11	0	2	37
接触節	20	7	27	5	0	59

接触節については、*BNC*から挿入節の主語が人称代名詞ではない1語の(代)名詞の用例を抽出するのが極めて困難なので、主語が人称代名詞の場合に限定する。従ってwhom節も人称代名詞の場合に限定した。そして、前述したが、接触節については、項目によっては、*SNC*による無作為抽出により、3,000例に限定されたものもある。

従って、仮に、接触節の全用例を抽出したら、用例数の増加が見込まれる。

しかし、用例数は、表2の2倍程度と思われる。大幅な増加が予測できない理由は、全体の用例数が41,284の“I think”の項目や、42,439の“you know”の項目について、無作為抽出された3,000例の中に、連鎖関係詞節の例は1例も存在しなかったことによる。

3.4 written (書き言葉)、spoken (話し言葉)における用例数

*BNC*の各用例は、written、spokenという評価がされている⁽¹²⁾。

writtenとされている例は全体の約89.4%、語数にして99,431,904語である。

spokenとされている例は全体の約10.6%、語数にして11,741,100語であ

る。

これらの比率と各連鎖関係詞節の用例のwrittenとspokenの占める比率を比較することにより、各連鎖関係詞節がwritten、spoken、どちらの傾向にあるかの推測が可能と思われる。

表3、表4、それぞれ、挿入節中の主語は人称代名詞である。

表3 (written)

	think	know	believe	hope	suppose	合計
who節	29	28	21	6	2	86
whom節	14	9	11	0	2	36
接触節	16	7	25	4	0	52

表4 (spoken)

	think	know	believe	hope	suppose	合計
who節	12	4	2	1	0	19
whom節	0	1	0	0	0	1
接触節	4	0	2	1	0	7

表5は、各連鎖関係詞節の用例とBNC全体の用例のwritten、spokenの占める比率を表す。小数点2位以下は四捨五入した。

表5

	written	spoken
who節	81.9%	18.1%
whom節	97.3%	2.7%
接触節	88.1%	11.9%
BNC	89.4%	10.6%

who節については、若干spokenの占める比率が高いようである。

whom節については、writtenの占める比率がかなり高い。

接触節については、BNC全体のwritten、spokenの占める比率とほぼ平行していると言えよう。

4. おわりに

who節、whom節について、『語法大事典』では、慣用を文法の基準とするなら、一般的に文法的破格とされているwhom節は、who節と同様、文法的に正しい、としている。またHuddleston & Pullumは、“an established variant”として、その存在及び慣用性を完全に認めている。このように評価をされているwhom節の使用頻度について、一定の、典型的な言語環境に限定し、*BNC*を検索したところ、表1によると39例存在した。who節115例と併せた154例の25.3%を占めていた。『語法大事典』は*Essentials*からの引用をもとに、一般に、“whom”の代わりに“who”が使用される傾向にあり、いずれは“whom”は姿を消す、とまで記述しているが、連鎖関係詞節においては、他の関係詞節においてや疑問詞ほどその傾向は強くないと言えよう。

*BNC*全体のうちwrittenの占める比率は89.4%、spokenは10.6%である。

表5について、who節のwritten、spokenの占める比率は、81.9%、18.1%、whom節の同比率は、97.3%、2.7%であった。これは、who節については、若干spokenの占める比率が高いようである。

一方、whom節については、writtenの占める比率がかなり高い。

全用例を検索したら用例数が2倍程度になると推測される接触節については、written、spokenの占める比率は、88.1%、11.9%である⁽¹³⁾。これは、*BNC*全体における比率とほぼ平行するものであり、writtenにおいてもspokenにおいても同じ程度使用されると推測できよう。

『語法大事典』は、接触節は目的格関係代名詞の省略されたもの、すなわち、whom節の延長線上にある旨、記述していた。しかし、表2から、接触節の使用頻度は、whom節よりかなり高いことが予測される。その用例数の多さから鑑み、「I（など人称（代）名詞）+ think（など主観的推測・判断を表す動詞）+ V ...」がwho節やwhom節とは独立した関

係詞節とも考えられる。今後検討を加えたい。また、挿入節中の主語が2語以上の場合や、挿入節中の動詞の特性や関係詞節中のVについても検討を加えたい。

本稿は日本実用英語学会第169回研究発表会において研究発表したものに若干の加筆・修正を加え、まとめたものである。

尚、同研究発表の準備にあたり、文京学院大学川崎清氏、元文教大学長野格氏、文教大学Julian Bamford氏には貴重なご助言をいただいた。本稿において感謝したい。

注

- (1) 関係詞節が他の節の中に埋め込まれている場合をいう。

あるいは関係詞節中に“I think”や“he believes”などが挿入されている、と説明される場合もある。本稿では、これに準じ、“I think”“he believes”などを「挿入節」と呼ぶ。

- (2) *The British National Corpus (BNC)* には以下のように“who”を使用しながらも、“they”をさらに使用している稀少な例が話し言葉 (spoken) の中に存在していた。

... he is one of a group of people who I think they call themselves the appointment committee —(1993) 7640 words speech recorded....

- (3) SCN (Shogakukan Corpus Network) による。
(4) スピーチレベルなどを度外視した客観的意味とする。
(5) 安藤 (2005) には、(a) についての記述しか存在しない。
(6) 1982年出版の25版も参照したが、連鎖関係詞節についての記述は

全く同一であった。

- (7) *Essentials*では“droun'd”としている。
- (8) この記述と次の『教室で教える場合は“who”を選ぶべき』という記述は、『英語語法事典』第11版p.478にすでに存在する。
- (9) 『英語語法事典』第11版には、さらに理由として、主格が2つ続くのは節に2つの主語があるように感じられ抵抗を生ずることが挙げられている。
- (10) who節、whom節、どちらが正しいかという質問をしたところ、ネイティブの男性大学英語教員5名のうち3名は“who”、1名は「わからない」、1名は「どちらでも良い」であった。whom節を正しくない、としたのが米国人であったことが興味深い。今後米国のコーパスの用例も含め検討を加えたい。
- (11) 挿入節中の主語が2語以上のものについては、これよりも少ないことが予測される。
- (12) ラジオ放送とテレビのニュース原稿で、評価が異なる等疑問に感じられるところもあるが、本稿は*BNC*の評価に従う。
- (13) 用例数が3,000を超える項目が存在していたが、3,000例は無作為抽出によるため、仮に全用例を検索したとしても、比率自体はそれほど変わらないと思われる。

参考文献

- Huddleston & Pullum (2002). *The Cambridge Grammar of the English Language*. Cambridge : Cambridge Univ. Press. (*CGEL*)
- Jespersen, O. (1974). *A Modern English Grammar*. (repr.) Oxford : Allen & Mowbray. (*MEG*)

- (1974). *Essentials of English Grammar*. (repr.) London : Allen & Unwin. (*Essentials*)
- 石橋幸太郎他編 (1965) 『英語語法事典』 第11版、東京：大修館
- (1982) 『英語語法大事典』 25版、東京：大修館
- (1995) 『英語語法大事典』 32版、東京：大修館 (『語法大事典』)
- 安藤貞雄 (2005) 『現代英文法講義』、東京：開拓社 (『英文法講義』)
- Swan, M. (1995) *Practical English Usage*. (second ed.) Oxford : Oxford Univ. Press. (*PEU*)
- 江川泰一郎 (1991) 『英文法解説』 改訂3版、東京：金子書房 (『英文法解説』)

Appendix

※用例の後の () 中の数字は *BNC* の示す出版年代、その後は出典である。
アンダーラインは本稿執筆者によるものである。

who節

1. And a gentleman who I think was Chinese had an accident with some plates whilst serving a meal —(1991) *Daughter of the Dales*.
2. Even at the age of 13 I'd be guided only by people who I thought knew something about the game —(1982) *Black sportsman*.
3. If you see someone who you think might need a push, ask first if your help is needed —(1992) *Outdoor Action*.
4. When Alayn, for instance, rouses the miller, who he thinks is John —(1993) *The fabliau in English*.
5. He had wept almost at the calling up of Michael Soames, who he thought might never dance again —(1989) *Oh! sister I saw the*

bells go down.

6. They wanted to give the notebook to Chris Bonington who they thought was coming to Kazakhstan in July. —(1992) Climber and Hill Walker.
7. And I've also gone for quality clients, companies I want to work for and who I know will pay on time. —(1992) Accountancy.
8. Write the names of anyone who you know is a bully or anyone who is being bullied. —(1992) The chocolate teapot.
9. ... it was a full two minutes before the door was opened and he faced a woman who he knew must be Evelyn Matlock. —(1989) A taste for death.
10. ... and in a mindless vortex of wanting, she, who she knew for certain was not the clinging type, clung on to him. —(1991) His woman.
11. Here we had a man who we knew had serious problems that constituted a danger to himself and others —(1990) False impressions.
12. There are 80 to 100 members who I believe will support the group after the election. —(1992) Daily Telegraph, electronic edition
13. Er, what was the plan about the others for all you knew who you believed was there, might have been somewhere else in the flat. —(1993) 11531 words speech
14. The government also tried to secure the removal from Punjab of four senior civil servants and police officers who it believed were strong supporters of Sharif. —(1990) Keesings Contemporary Archives.

15. Fashanu will give Jones, who he believes is one of soccer's most misunderstood men, a glowing character reference. — (1992) Today.
16. We therefore have to be in a position to share the dreams and the understandings of those people who we believe are making the running ... — (1988) Making it happen.
17. Police have discovered the body of a pensioner who they believe fell from his dinghy while fishing ... — (1993) Central television news scripts.
18. ... especially amongst our new visitors who I hope will be happy and safe inside our homes. — (1983) Goodnight Mister Tom.
19. ... Pat was first on my mental list of people who I hoped would particularly benefit. — (1989) Rosemary Conley's hip and thigh diet.
20. ... and a child who he supposed must be getting on for four. — (1990) Guilty parties.

whom節

1. There are very few of those artists of the 1980's whom I think will have any standing in a few years. — (1991) Women's Art.
2. "I've known Buff Orpingtons whom I thought had a spark." — (1991) Unholy Ghosts.
3. ... a client will not discuss intimate affairs with someone whom he believes to know nothing of such matters, or whom he thinks may condemn or be shocked by his problems. — (1979) Sexual aspects of social work.
4. He consulted a few people whom he thought were good tests of

- opinion. —(1988) Baldwin.
5. ... the development officer sometimes found a client with a home help whom she thought was unsuitable or would not work well with her support workers. —(1990) Dementia and home care.
 6. ... the court held that the police were wrong to arrest for manslaughter the person whom they thought had been driving the truck —(1990) Freedom under Thatcher.
 7. I found it tiring to have somebody in the house whom I knew was not really enjoying what she was doing. —(1993) Disabling barriers: enabling environment.
 8. You only do it with those whom you know can take it —(1992) Climber and Hillwalker.
 9. This would explain the cases where the plaintiff accepts a lift with a driver whom he knows is drunk. —(1993) Law of tort.
 10. He was not afraid to be seen deep in conversation with a Samaritan woman whom he knew was cohabiting with another man —(1992) I believe in church growth.
 11. Lucille had left France because she loved Sharpe, whom she knew was a better man than he thought himself to be. —(1990) Sharpe's Waterloo.
 12. Most were inherent cowards who picked only on people whom they knew were frightened of them. —(1992) Dangerous lady.
 13. ... but in order to find an answer to the perennial argument of the single millionaire, I asked someone whom I believe is a millionaire. —(1992) Hansard extracts 1991-1992.
 14. Norris is at some pains to extricate Derrida's meanings from the

- American literary critics whom he believes have misappropriated them. —(1990) Exploding English.
15. Mariategui's assertion of the need for a socialist revolution excluded the possibility of coopting the bourgeoisie, whom he believed had an intrinsic interest in collaborating with imperialism. —(1989) Soviet relations with Latin America.
16. ... the fact that we get most of our true beliefs from other people, whom we believe are better placed than we are to get them for themselves, is just a special case of division of labour —(1990) Ways of communicating.
17. ... it was surprising how many of the characters were unpleasant, even Tinkerbell, whom she supposed was some sort of bad fairy. —(1990) An awfully big adventure.
18. We hoped that the US medical team whom we supposed would attend him at Wiesbaden ... would recognize that he needed a long rest. —(1993) Some other rainbow.
19. I said, get me the man whom people think can beat me. —(1992) Today.
20. The film starred Sharon Tate, whom Polanski thought was only fourteen years old. —(1991) The joker's wild: biography of Jack Nicholson.

接触節

1. You eliminates those who are too timed or those you think are too aggressive. —(1993) speech recorded in public context.
2. You invited people you thought would dislike each other and

- you watched them get along swingingly. —(1990) *The Buddha of suburbia*.
3. ... take the ball from an opposing forward and send it to the forward he thinks will make the best use of the pass —(1981) Herbert Chapman. *Football emperor*.
 4. As he groggily came round he found himself surrounded by three youths he thought were trying to help him. —(1992) *The Daily Mirror*.
 5. ... his wife reproaches him with being a coward because he will not confront the men she thinks have killed the animal. —(1991) Dustin Hoffman.
 6. If we nicked everybody we thought might have done a long-firm, we'd never finish our paperwork —(1992) *Crime*.
 7. Two Norfolk men were recently jailed for seizing a youth they thought had been stealing a bicycles. —(1993) *Central television news scripts*.
 8. In order to produce this chapter, I contacted various people I knew produced interesting and novel food in the past. —(1990) *Colin the Clown's party book*.
 9. He even borrowed money from his father for petrol to join friends in the search for the brother he knew was already dead.
—(1992) *Today*.
 10. ... any troops will respond better to a leader they know has been through the fire himself —(1991) *England versus West Indies*.
 11. In the cold light of day, you're forced to see me as I am—the woman you believe stole your grandfather's jade. —(1992) *The*

stolen heart.

12. And there are other English players, like Steve McManaman, he believes are capable of playing in the Italian league. — (1992) Today.
13. ... a Harley Street doctor paid £2,500 for him to donate a kidney to a patient he believed was a fellow countryman. — (1989) The Guardian, electronic edition
14. An Englishwoman who went to Canada in search of the son she believes could have been murdered has been told — (1992) Daily Telegraph, electronic edition
15. She was alone with the man she believed had killed once and tried to kill a second time. — (1988) Guilty knowledge.
16. These are the people we believe have shaped and moulded history, and the society in which we now live. — (1991) Counselling older people.
17. Top members of the royal household refused to name the person they believe wrote the “fake” note. — (1992) the Daily Mirror.
18. Nottinghamshire police have released a recording of a girl they believed called the Kingsmill Hospital at Sutton in Ashfield — (1993) BBC Radio Nottingham
19. The Commander, having decided the personnel he hoped might join him, contacted several — (1979) Commandoes and rangers of World War II.
20. We have a wish-list of people we hope might pop their clogs before Christmas. — (1992) Today.